



林業・木材産業の振興と森林の保全と活用

主担当部局：農林部



高性能林業機械による造材



奈良の木を使用した公共建築物（オーベルジュ・ド・ぶれざんす 桜井）

目指す姿

県産材の安定供給と利用拡大を図るとともに、森林の有する多面的機能を発揮させるため森林の適切な保全と活用を図ります。



●平成32年までに、木材生産量を

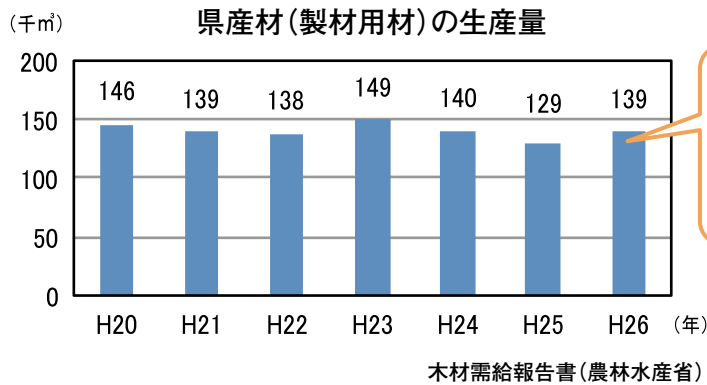
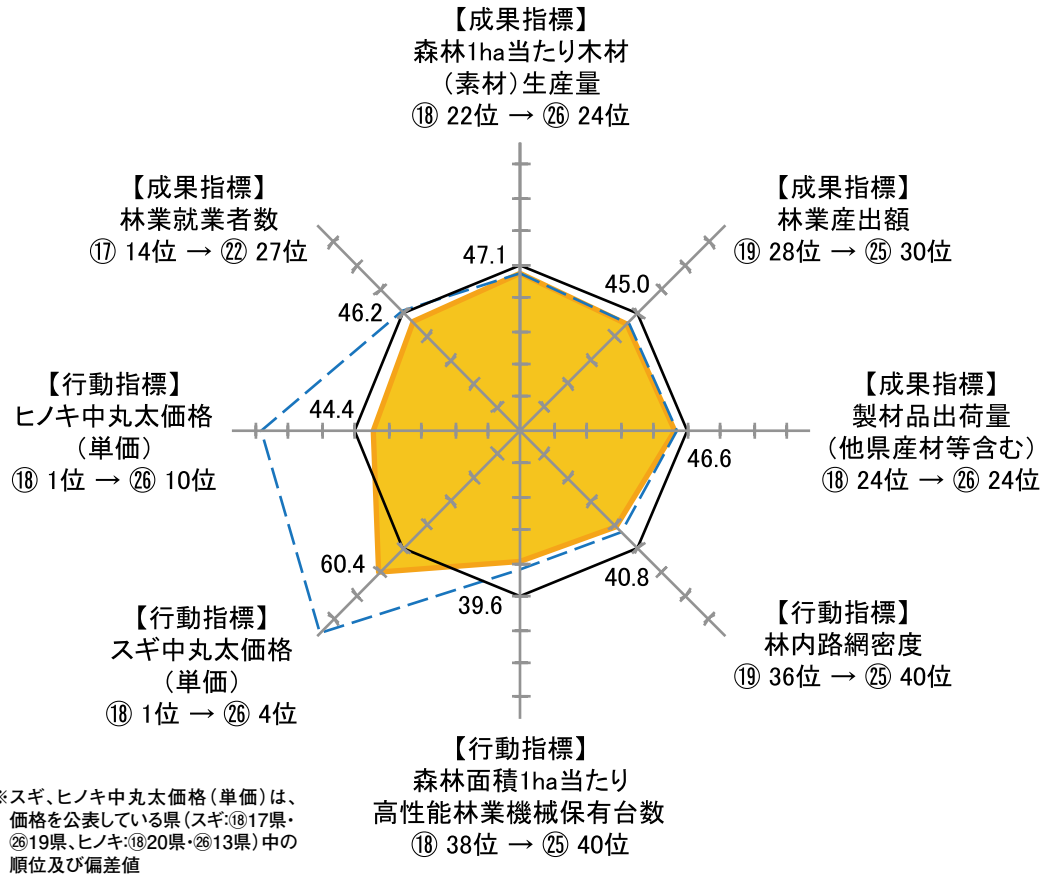
25万 m^3 (A材148千 m^3
B材 44千 m^3
C材 58千 m^3)
に増やします。

(平成25年度：14.8万 m^3)

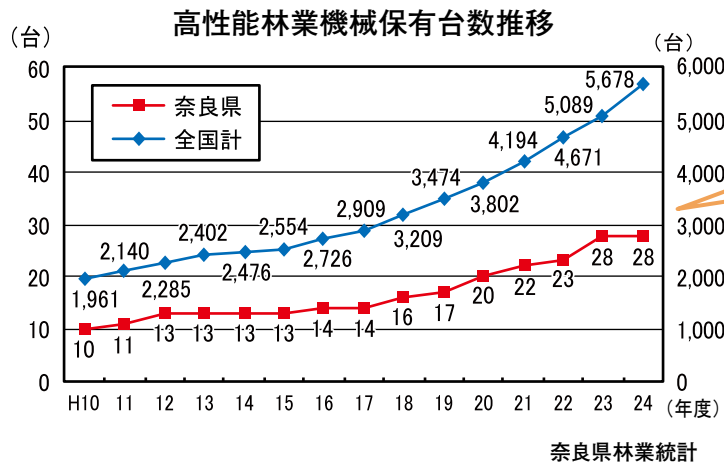
現 状

分 析

■ 主な指標



概ね横ばいで推移していますが、住宅に県産材を使用する機運が高まり、前年より増加しました。



高性能林業機械の導入台数は増加傾向です。

戦略1

A・B・C材全てを搬出して多用途に供給する林業への転換を図ります。

主担当課：農林部 林業振興課

戦略目標

- ▶平成29年度に、儲かる林業施業提案森林及び第1種木材生産林からの木材生産量を、18千m³に増やします。(平成25年度：5千m³)
- ▶平成29年に、間伐事業におけるB・C材の搬出量を35千m³に増やします。(平成25年：19千m³)

取り組み

儲かる林業施業予定森林を掘り起こし、森林所有者と素材生産業者とをマッチング

奈良型作業道や林道、架線集材施設等による木材生産の拡大

補助対象をA材のみからB・C材へ拡大し、間伐材の搬出・利用を支援します。



架線集材



奈良型作業道を利用した出材

工程表

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
儲かる林業施業予定森林を掘り起こし、森林所有者と素材生産業者とをマッチング				
◎プロジェクトチームによる集約化施業提案に基づく素材生産の拡大	集約化施業提案団地の選定・所有者への提案			
	素材生産業者とのマッチング、林業機械導入、架線集材施設等への支援			
奈良型作業道や林道、架線集材施設等による木材生産の拡大				
◎第1種木材生産林における低コスト集約化施業への支援	施業団地の募集			
	奈良型作業道開設、林業機械導入、架線集材施設等への支援			
補助対象をA材のみからB・C材へ拡大し、間伐材の搬出・利用を支援します。				
◎間伐材の搬出・運搬に対して支援	A・B・C材全ての出材に対して支援			

戦略2

A・B・C材毎の受け皿の確保及び県産材製品の安定流通の実現を図ります。

主担当課：農林部 奈良の木ブランド課

戦略目標

- ▶ 平成29年度までに、大規模製材工場と川上との**直接安定取引契約を5件締結**します。(平成25年度：0件)
- ▶ 平成29年度に、**公共事業や公共建築物での県産材使用量を7千㎡**に増やします。(平成25年度：5千㎡)
- ▶ 平成29年度に、**県産材の自給率を62%まで向上**させます。(平成25年度：55%)

取り組み

A・B・C材毎の受け皿の確保と競争力のある製材・加工・流通体制の構築

県産材製品の販路開拓及び多用途での利用拡大

川下・川中・川上が連携した県産材の利用拡大を図る取り組みの推進



木質バイオマス発電所（大淀町）



奈良の木づかいフェスタ（橿原市）

工程表

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
A・B・C材毎の受け皿の確保と競争力のある製材・加工・流通体制の構築				
◎建築用材の受け皿確保と製材・加工・流通体制構築	製材工場と山側の安定取引契約の実現、小規模ネットワークの構築			
◎集成材ラミナ、合板用材の受け皿確保と製材・加工・流通体制構築	県産材ラミナ用原木の安定流通体制構築、県産集成材製品の増産、合板用材の取引量の増加に向けた取り組み			
◎パルプ・チップ用材の受け皿確保と製材・加工・流通体制構築	木質バイオマス発電所への原木供給状況の把握・指導・助言、チップ用材の取引量の確保			
◎A・B・C材の特質に応じた製品化の推進	ユーザーニーズを踏まえた新製品の開発、製品化の推進			
県産材製品の販路開拓及び多用途での利用拡大				
◎県産材のブランド力向上	県産材PR活動の推進、人材育成、木育の推進			
◎販路の拡大	首都圏での販路拡大、海外での販路開拓			
◎公共での利用推進	公共工事での利用推進、公共建築物への利用推進			
◎民間での利用拡大	住宅・学校・病院・社会福祉施設・商業施設等への利用推進			
◎建築物以外での利用拡大	暮らしの道具・土産物等の商品化			
◎木質バイオマスエネルギーの利用拡大	実証実験の実施、PRの推進、ペレットストーブ・ボイラー等の設置			
川下・川中・川上が連携した県産材の利用拡大を図る取り組みの推進				
◎需給コーディネート機能の構築	需給連絡会議の開催			
◎産直住宅の取り組み拡大	推進会議の開催、体制構築・PR等の支援			
◎奈良の木ツーリズムの取り組み推進	ツアーの開催、検討会議の開催、ツアーマップの作成			

戦略3

森林環境の適切な保全を図ります。

主担当課：農林部 森林整備課

戦略目標

- ▶平成34年度に、**多面的機能を持った森林整備面積を67,344haに増や**します。(平成27年度：65,283ha)
- ▶平成28年度から平成32年度までの5年間で、**里山づくりのための整備を125カ所実施**します。(平成26年度：27カ所)
- ▶有害獣である**ニホンジカを毎年度8,000頭捕獲**します。(平成26年度：8,105頭)

取り組み

「環境保全林」の整備・保全推進

森林環境管理制度の導入

山地災害の予防と復旧

身近な森林の整備・保全推進

森林生態系の保全推進



森林環境管理制度の検討



スイスフォレスターを招いての講習会（高取町）

工程表

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
「環境保全林」の整備・保全推進				
◎施業放置林の整備	強度間伐等の実施			
森林環境管理制度の導入	制度導入の検討・制度設計			本格運用
山地災害の予防と復旧	緊急度、重要度の高い箇所を優先し、早期に実施			
身近な森林の整備・保全推進				
◎里山づくりの推進	里山林の整備			
森林生態系の保全推進				
◎ナラ枯れ等森林病虫害の防除	緊急森林被害対策の実施			
◎野生鳥獣被害防止対策の推進	有害鳥獣の駆除・捕獲、狩猟者の確保・育成			

戦略4 森林の公益的機能を活用します。

主担当課：農林部 森林整備課

戦略目標

- ▶ 山と森林の月間イベントを毎年度100件以上開催します。(平成26年度:107件)
- ▶ 平成28年度から平成32年度までの5年間で、森林環境教育の指導者を50人育成します。(平成26年度:13人)

取り組み

森林の活用推進

森林に関する理解の推進



奈良県山の日・川の日普及推進イベント (奈良市都祁)



森林とのふれあい推進 桜の植栽 (高取町)

工程表

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
森林の活用推進				
◎森林とのふれあいの推進	立入利用・眺望活用のための整備	市町村・森林所有者等による立入利用・眺望活用のための協働整備の推進		
◎森林環境学習の推進	森林環境普及啓発イベントの実施等			
森林に関する理解の促進				
◎森林環境教育の推進	森林環境教育の普及啓発、指導者の養成			

これまでの成果

★県職員自らが、「儲かる林業」の施業プランを森林所有者に提示して集約化を実施する、**儲かる林業施業森林4団地**において、**木材生産**を実施しました。

里山づくりについては、奈良県森林環境税を活用して平成18年度から取り組んでおり、平成27年度までの間で、**NPO**や**ボランティア団体**（のべ21,767人）が**整備に携わり**、プロによる整備と合わせて、**218カ所**を整備しました。

奈良の木の贈り物10アイテムをプロジェクトチーム（県、民間企業、デザイナー）で**開発・試作**しました。

森林環境管理制度導入に向けて、国外の先進地（スイス）よりフォレストラーを招き、**研修会**を実施しました。

主な指標の動き

■よくなっている指標

森林1haあたり木材（素材）生産量

0.58m³

（平成18年 全国22位）



0.60m³

（平成26年 全国24位）

A材のみでなく、B・C材の搬出・利用が進み、長年にわたり低迷していた木材生産量は増加傾向にあります。

■変化が見られない指標、低下している指標

林業産出額

468千万円

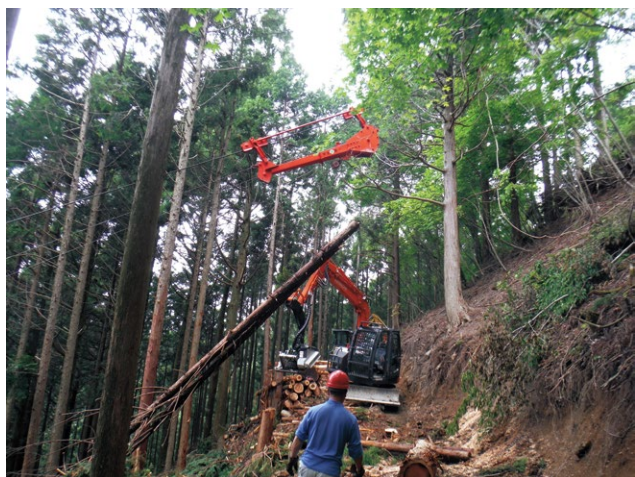
（平成19年度 全国28位）



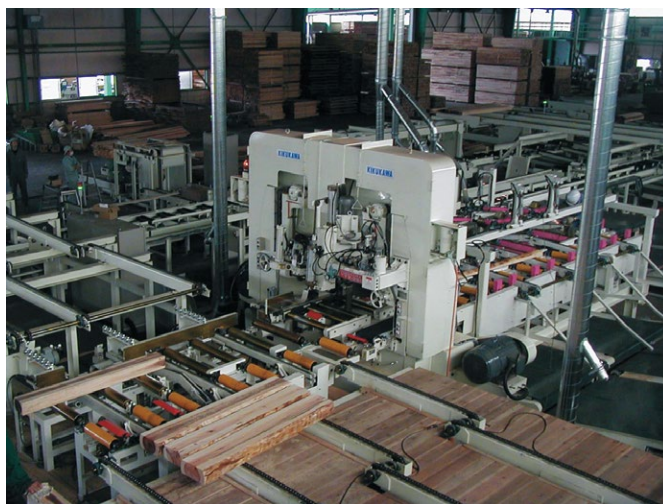
330千万円

（平成25年度 全国30位）

全国平均よりも早いペースで木材価格の下落が進んだことにより、森林所有者や素材生産業者の木材生産の意欲は減衰し、林業産出額の全国順位が下落しました。



架線と作業道を利用した集材



製材工場における木材加工



県産材を使った遊具（橿原市）



木材を利用した治山の取り組み（吉野町）



奈良の木を使った家具